千葉県発　環境企業特集

持続可能な社会に貢献

温室効果ガス（GHG）の増加や化石燃料の多用、有害物質の排出などが主因とみられる地球温暖化や環境汚染が近年、社会的課題とされている。こうした中、社会を挙げた国連の持続可能な開発目標（SDGs）や、カーボンニュートラル（温室効果ガス〈GHG〉排出量実質ゼロ）の達成に向けた取り組みがより一層加速している。このような社会の要請に、環境への負荷を低減する製品・技術や、資源リサイクルなどで応えようとする企業が年々増えている。調達難につながる中東情勢の混乱やエネルギー・原材料価格の高騰など景気の先行きに不透明感が漂う中でも環境対応と事業成長の両立に挑戦している千葉県に拠点を持つ中堅・中小企業を特集する。

リファインホールディングス

バイオマスコンパウンドを用いたフィルムを開発

未利用資源が主成分、多方面へ展開

リジェネイチャーを使用したバッグ

リファインホールディングス（HD、東京都千代田区、川瀬泰人社長）は、バイオ成分が100％のバイオマスコンパウンド「RegeNature（リジェネイチャー）」を用いたフィルムを開発した。未利用資源を主成分とし、石油など地下資源由来の成分は一切使用していない。今後、レジ袋や農業向けのマルチングシートなどへの展開を目指している。

リジェネイチャーは木材加工のくずやもみがらなど数十種類の未利用資源が活用可能なことを確認しているプラスチックのような精密成形性と、アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン（ABS）樹脂並みの強度を持ち、すでに木製ハンガーや猫トイレなどに成形、商品化している。このたび、強度を保ちつつ粒子をより細かく、薄く加工する手法を開発し、フィルム化に成功。今年1月には東京都江東区に研究開発拠点を開設し、実験用プラントで生産を始めており、幅広い領域への供給を目指している。

川瀬社長は「農業や小売など市場規模が大きい分野でも、リジェネイチャーのさらなる活用が期待できる」と意気込む。

<企業情報>
リファインホールディングス株式会社
〒100-0005
東京都千代田区丸の内2-2-1 岸本ビル11F
TEL：03－3201－3357
FAX：03－3201－3322

千葉オイレッシュ

ドラム缶やコンテナの洗浄設備を導入

リサイクル率100％を目指す

市原工場に導入した洗浄設備

千葉オイレッシュ（千葉県君津市、野村拓也社長）は、市原工場（同長柄町）を一部改装し、プラスチック製のドラム缶やコンテナの洗浄設備を導入した。総投資額は150万円。これまで廃油による汚れで再利用ができなかったプラスチック製のドラム缶やコンテナを洗浄し、会社全体のリサイクル率を高めるほか、廃棄にかかっていた作業費の削減にもつなげる。2029年度までに行政から許認可を得て、新たに廃棄物処理施設としての事業化を目指す。

千葉オイレッシュは化学品などを製造する工場から回収した廃油を処理・リサイクルし、石炭の代替燃料として供給する再資源化事業を手がける。このたび、市原工場の空きスペースを一部改装し、建屋を建設。クレーンと温水ジェッターを設置した。200㌔㍑のドラム缶50個、1㌧コンテナ30基をそれぞれ洗浄できる。これまでスクラップ化できていた鉄製の容器に加え、プラスチック製の容器も再利用が可能となる。同社の野村進一会長は「会社全体のリサイクル率を引き上げ、将来的には100％達成を目指す」と語る。

<企業情報>
千葉オイレッシュ株式会社
〒292-0526
千葉県君津市笹1249－3
TEL：0439－39－3033
FAX：0439－39－3188

船橋総行

充電率が低いEVを優先充電

低コストEV充電システムを実現

専用アプリからEVの充電状況を確認できる

船橋総行（千葉県船橋市、二宮正社長）は、低圧充電設備を活用し、充電率が低い電気自動車（EV）から自動充電できるシステム「EVR－D（EVローダリーダイナミクス）」の受注活動を9月1日に始める。価格は個別見積もり。同システムは東京電機大学と共同開発し、すでに特許取得済み。2030年までに普通充電器の2万7000口をカバーできるシステムの受注を目指す。

従来製品「EVR」は、複数のEVをグループ単位で順番に充電することで、高圧受電設備を使う方式に比べ契約電力を数分の一に抑えられる一方、充電残量の少ない車両を優先できない課題があった。このたび開発したEVR－Dは、各車両の必要充電量に応じて一定時間ごとに充電の優先順位を自動で算出し、配線を切り替えることで、EVの平均充電率を高め、公平で効率的な充電を実現する。また、専用アプリで充電状況や残り時間、充電完了後の利用時間も確認できる。

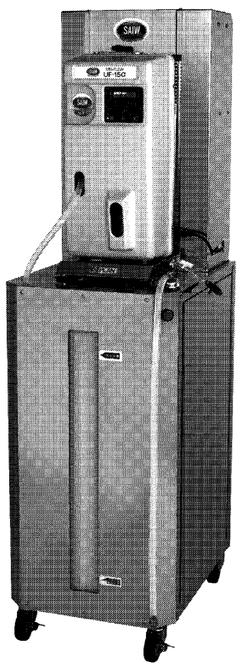
同社は今後、受注拡大を図り、顧客の総保有コスト（TCO）削減と利便性向上を訴求するとしている。

<企業情報>
株式会社船橋総行
〒273-0014
千葉県船橋市高瀬町62－2
TEL：047－434－1551
FAX：047－433－5030

Eプラン

メーカーなどと協業し販売体制強化

安全性向上、環境負荷軽減に貢献



強アルカリイオン電解水生成装置

Eプラン（千葉県船橋市、松澤竜輔社長）は、強アルカリイオン電解水生成装置の拡販に注力する。同装置で生成した強アルカリイオン電解水は水素イオン指数（pH）12・5で99・83％の純水と0・17％のカリウムが成分。生成過程でも酸性水と塩素ガスなどが発生しない一方で、強力な洗浄・除菌・消臭・防錆効果がある。安全性向上や環境負荷軽減につながる。そこで生成した強アルカリイオン電解水を工場内での洗浄用途で従来から利用されるシンナーなど有機溶剤の代替品として主に提案していく。有機溶剤は洗浄力がある一方で引火性や臭気、環境負荷などといった課題があるという。

また販売体制の強化としてメーカーなどと協業する。現在、アマダと環境ビジネスのパートナーシップとして展開している。Eプランがアマダ製品として開発した金属加工業界向けの生成装置と洗浄機をアマダが販売する。金属加工業界も環境負荷軽減などの観点から脱・有機溶剤を進めており着実に成果が出ているという。

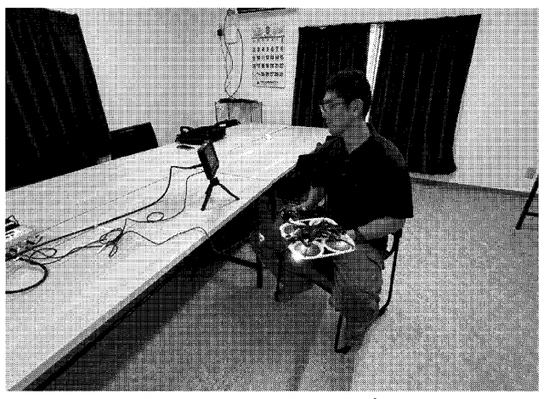
今後もこうした他社と協業し拡販につなげていく考え。

<企業情報>
株式会社Eプラン
〒273-0014
千葉県船橋市高瀬町31-6
TEL：047－404－9240
FAX：047－404－9241

センエー

ゆたかな環境づくりに長年貢献

インフラ点検用のドローンを導入



社内でドローン操作を練習するパイロット

センエー（千葉市稲毛区、山本剛社長）は、下水管路施設の保守や点検、清掃などの維持管理業務を中心に手がける。同社は1936年にし尿くみ取り業者としてスタート。時代の変化と共に主力事業を変えつつも、「ゆたかな環境づくり」をモットーに掲げ、生活に必要な水の環境と社会インフラを保全する理念は変えずに事業を持続させてきた。

自然災害時の公共インフラ再整備業務にも定評があり、これまでに全国各地で発生した大地震の復旧業務にあたってきた。24年の能登半島地震では被災状況の調査を行ったほか、25年に起きた埼玉県八潮市の道路陥没事故でも40日間・24時間体制で復旧作業に尽力した。

また、デジタル変革（DX）にも積極的に取り組んでいる。今年4月にはリベラウェアのドローンを導入。現在、同社には操縦を担当するパイロットと呼ばれる社員が4名在籍している。そのうち20代が3名、30代が1名と若い編成になっており、山本社長は「若手の活躍現場を創出することにもつながる」と強調。今後も事業のアップデートを続け、持続性の確保を目指す。

<企業情報>
株式会社センエー
〒263-0042
千葉市稲毛区黒砂2-12-11
TEL：043－241－3156
FAX：043－247－5670